

「印刷工業組合」で

あなたも一緒に

長崎県印刷工業組合

〒850-0862 長崎市出島町10-13

TEL095-824-2508 FAX095-824-2509

URL <http://www8.ocn.ne.jp/~pb-naga/>

E-mail nagapuri@fancy.ocn.ne.jp

長崎県印刷工業組合とは

中小企業団体組織法による、長崎県下全域を区域とする唯一の一般印刷業の団体であり、出資組合であります。

現在、長崎で組合に加入している仲間は69社、全国各都道府県でも印刷工業組合が設立され、同じ仲間が5,828社の仲間がいます。(H23/12/1 現在)

東京に上部団体として「全日本印刷工業組合連合会」が組織され、中小印刷企業の地位向上、健全なる経営基盤の確立を期して指導事業を推進しています。

また、「(社)日本印刷産業連合会」の構成員として、印刷業界全体と関連団体の協力のもと“文化を支える印刷産業”を広く社会にアピールする努力を続けております。

印刷工業組合の目的

本組合は、印刷業の中小企業者の改善発展を図るための必要な事業を行い、これらの者の公正な経営活動の機会を確保し、ならびにその経営の安定および合理化を図ることを目的とする。(長崎県印刷工業組合定款第1条より)

印刷産業人綱領

われわれ印刷産業人は、社会の責任ある一員としてその使命を自覚し、国民生活及び文化の向上に寄与するとともに産業基盤の強化と限りない発展をめざして本綱領を掲げる。

- 1、われわれは、印刷産業人としたモラルを堅持し、自ら律して行動するとともに、地球環境保全と地域社会との連携調和に努める。
- 1、われわれは、情報社会の推進者たる誇りを堅持し、優れた技術と積極的な提案を持って顧客に応え、常に有益な製品及びサービスを提供する。
- 1、われわれは、たがいにその立場を尊重し、協調と秩序を重んじ、叡智を集め業界発展に尽す。

組合へ加入すると

1、仕事の交流を通じて助け合う。

組合に加入することによって多くの仲間ができ、仕事の交流を通じて助け合うことができる。

2、社会的地位の向上。

組織の力で行政等に対する働きかけを行い、企業並びに業界の社会的地位の向上を図ることができます。

3、各種の業界情報を得る。

広報紙(「PBながさき」、「日本の印刷」等)その他、各種の調査資料により、広く労務、技術、資料等や地域などの各種の業界情報を得ることができます。

4、経営上の知識を得る。

講演会、講習会、研修会、セミナー等の諸会合へ参加することによって、経営上の知識を多く得ることができます。

5、福利厚生面の充実。

団体扱いによる各種の共済保険制度がより有利に活用でき、福利厚生面が充実します。

6、研修会への参加、各種資格の修得。

印刷作業技能検定他、各種資格制度の活用によりなお一層のパワーアップが図れます。また、組合主催の研修会も度々行われます。

7、労務・環境対策はより充実。

労基法の改正や労務関係調査等の配布、要点の説明、また労務講習会に参加し更なる理解を深めることができます。

8、各種レクリエーション活動の参加。

ソフトボール大会・ボウリング大会等の競技があり、みなさんに変え喜ばれ多数の従業員が毎回参加され楽しんでおられます。

9、全国印刷工業健康保険組合への加入。

一定の条件を満たした事業所は、全国印刷工業健康保険組合に加入でき、政府管掌健康保険の給付に加えて、組合独自の付加給付や健康診断等の保険事業など数々のメリットを受けることができます。

10、九州印刷工業厚生年金基金への加入。

企業年金制度を印刷業界で団体として実施している九州印刷工業厚生年金基金に加入することができます。

組合加入のおすすめ

- 組合員一同、あなたのご加入をお待ちしております。
- 相互扶助により事業経営のご努力に少しでもお力添えできるように行動したいと考えております。
- 個人の力を組織の力へと結び、連帯の輪を広げて業界の発展と地位の向上を図りましょう。

各種事業活動

● 経営革新・マーケティング事業

経営には多くの課題が連鎖的かつ複合的に結びついています。さまざまな角度から経営戦略の研究を行い、経営革新に寄与する情報の発信、業態変革への取り組みの支援を行っています。

また、部会活動では、印刷業におけるマーケット創造の研究、印刷業界の活性化に撃っていくための印刷産業ビジョン研究をすすめています。

このほか、各種調査の実施、関連団体との連携による情報提供を行っています。

- 1、経営戦略の研究
- 2、マーケット創造の研究
- 3、資機材対策の推進

● 教育・労務事業

経営者研修会の企画提案、および人材育成セミナーの開催支援、そして教育制度では各工業組合や関連団体の協力を得て各種講座・認定試験を実施しています。

また今後の雇用環境をめぐる動向の研究と対応、および関連情報の収集・提供を行っています。

- 1、経営者研修会の企画推進
- 2、人材育成セミナーの開催支援
- 3、教育制度事業の実施
- 4、技能検定実施への協力
- 5、労働関係法令の研究と対応

● 環境事業

地球温暖化対策や環境に配慮した商品開発など、企業経営における環境対応が重要性を増しています。グリーンプリンティング認定制度およびリサイクル対応型印刷物の普及促進、CO₂の消滅、カーボンフットプリント対応などに努めています。

またグリーン購入法など環境関連法令の研究と対応および関連情報の収集・提供を進め、環境ニーズへの対応を図っています。

- 1、環境関連情報の収集と提供
- 2、地域温暖化対策の情報収集・提供
- 3、グリーンプリンティング認定制度の普及・推進

● 組織運営事業

魅力ある組合づくりに向けた地域社会に貢献する活動の研究、組織運営体制の研究、ならびに組合員台帳調査の実施を通じた組合機能強化策の研究と促進を行っています。

また、組合情報の共有化による全印工連との連携強化、情報ネットワークの活用研究、広報活動を通じた情報発信、組織関連情報の収集・提供を行っています。

このほか、全日本印刷産業政治連盟と連携して政策的課題への対応を図っています。

- 1、組合機能強化の促進
- 2、組合情報の共有化の推進
- 3、政治的課題の研究と対応
- 4、組織関連情報の収集・提供

● 共済事業

全国規模のスケールメリットを生かし、企業・業界の福祉向上と組合財政への寄与を目的とする共済制度として、「生命共済制度」「経営者退職功労金制度」「災害補償共済制度」「総合設備共済制度」「医療共済制度」を実施・運営しています。

- 1、「生命共済制度」(災害保障特約付団体定期保険)は死亡・高度障害の他、不慮の事故による障害や入院についても保障する共済制度として昭和51年4月に発足し、平成23年3月現在の契約高は約391億円(平成13年4月から全日本印刷工業組合連合会共済センターを契約団体として運営しています)。
- 2、「経営者退職功労金制度」(拠出型企業年金保険)は、企業が退職功労金の資金を積み立てるための共済制度として昭和56年11月に、「災害補償共済制度」は就業中の災害による事故を補償する共済制度として平成3年11月に発足しました。
- 3、「総合設備共済制度」は機械設備の事故による損害を補償する共済制度として平成7年11月に発足、平成23年3月現在の契約高は約1,171億円を有し、全印工連の福利厚生事業・経済事業としてそれぞれが実績を挙げています。
- 4、平成16年7月からは年々増加する医療費の自己負担に備えるための「医療共済制度」をスタートし、組合員企業の幅広いニーズに応えるべく、共済制度の一層の拡充をめざしています。

長崎県印刷工業組合青年部

青年部が組織され、活発な活動を行っています。次代を担う若い方々の交流・育成をバックアップいたします。これらの青年部により、研修会等を企画・開催するなどの活動をしています。

印刷の日



印刷業界においては、かねてから印刷の日の制定を望む声がかされてきました。昭和52年全印工連において9月3日の本木昌造の命日をはさみ、1日～7日を「印刷週間」とすることが決定されました。61年から期間を延長して「印刷月間」さらに毎年9月を「印刷の月」と改め初日の9月1日を「印刷の日」と定め、印刷産業が社会生活に果たしている役割を広くアピールすることを目的として全国で様々なイベントを展開しています。全印工連では日本印刷文化典・全国大会をメインイベントとして開催され、全国の各都道府県印刷工業組合においても地域性に富んだ様々な行事が開催されております。特に長崎工組では本木昌造顕彰会が組織され、墓参・法要などを開催しております。

協同組合事業

協同組合事業は、諸資材の共同購入販売、リスク管理のための各種保険の加入促進を充実させ、更に協業化についての方策も検討して今日に至っています。

本木昌造顕彰会



鑄造活字を用いた活版印刷術の発明はヨーロッパ近代の成立を促進しましたが、日本においてもその導入と普及は近代化の促進に欠かすことのできない原動力でした。そこにきわめて大きな役割を果たしたのが、長崎に生まれ長崎に没した本木昌造です。

自ら活字の鑄造を試み、対訳本を印刷出版するなど早くから活字の重要性に着目した本木昌造は、明治2年に上海・美華書館のウリイアム・ガンブルを招聘し、率先して活字の製造技術を習得した。その技術のうち最も重要なものが、字形の複雑な漢字の製造に適した「蠟型電胎法」という母型製作法です。

「蠟型電胎法」による母型製造で、明朝活字またオリジナルの楷書・行書漢字や平仮名文字を活字化、実用化したことが、日本近代活字印刷技術を定着させ今日の印刷業界の発展につながっています。